



くりはらの**地方創生**に 貴社の御協力をお願いします

企業版ふるさと納税とは？

税目ごとの特例措置

①法人住民税
寄附額の4割を税額控除。(法人住民税法人税割額の20%が上限)

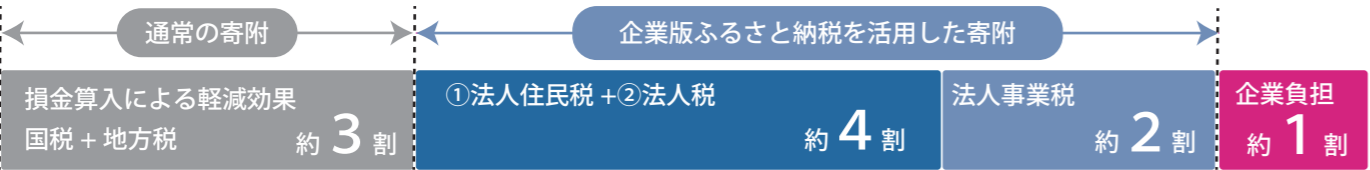
②法人税
法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除。
ただし、寄附額の1割を限度。(法人税額の5%が上限)

③法人事業税
寄附額の2割を税額控除。(法人事業税額の20%が上限)

企業版ふるさと納税は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。

また、令和2年度に、地方創生のさらなる充実・強化に向けて、地方への資金の流れを飛躍的に高める観点から、制度が大幅に見直されました。

これにより、損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業負担は、約1割まで圧縮されました。



寄附におけるメリット

- 企業の社会貢献として**
 貴社の掲げる社会貢献や地域貢献、またはSDGsの達成をより効果的に進めることができ、企業の価値向上につながります。また、栗原市や栗駒山麓ジオパークのSNSサイト、ビジターセンターの展示等でも、貴社の取り組みを広報させていただきます。
- 新たなパートナーシップ構築
新事業の展開につながる**
 貴社のさらなる価値向上へ向け、栗原市および栗駒山麓ジオパークと協働することで、当地域の資源を活用した新たな事業の展開に繋がります。
- 10万円から寄附が可能**
 一回あたりの寄附は、10万円から行うことが可能です。
- 制度利用にあたっての条件**
 ＊寄附の代償として、経済的利益を受けるとの禁止
 ＊本社が所在する地方公共団体への寄附は対象外

栗駒山麓から 地球とわたしの 未来を考える。

「自然災害との共生と豊穡の大地の物語」

Theme of Mt.kurikoma Area Geopark

Mt.Kurikoma Area Geopark PROJECT
栗駒山麓ジオパーク

プロジェクト



プロジェクト 内容と 成果

それを通じて上げたい



宮城県栗原市は、なぜ“ジオパーク”を目指したの？

宮城県北西部に位置する栗原市。「平成 20(2008)年岩手・宮城内陸地震」によって、栗駒山麓を中心に大きな被害が生じました。

栗駒山麓に暮らす私たちは、この地震をきっかけに、自然と共生するため、この地の成り立ちに目を向け、この地で暮らしてきた先人の工夫にならうことの大切さに気付きました。

大地の歴史に目を向け、そこにならう大切さに気付く“きっかけ”となった内陸地震を忘れないこと。

内陸地震によって生じた崩落地という新たな景観や、栗原の美しい自然、歴史・文化を、私たちの手によって守っていくこと。

それらを教育や防災・減災、持続可能な経済活動などに、上手に活用していくこと。将来にわたって、地球の恩恵を受けながら、豊かに暮らしていくための方法を考えていくこと。

そんな思いから、栗原市では、「栗駒山麓ジオパーク」としての活動を、2012年（平成24年）にスタートさせました。

栗原の次代へ継承するために

私たちは、右記プロジェクトを通じ、たくさんの恵みを私たちに与えてくれる栗原を、次代へとつなぎ、よりよい未来を実現していきたいと考えています。そして、ジオパーク活動の柱である「保全・教育・持続可能な開発」に関連した様々な活動を通じ、地球規模の課題とも向き合いながら、SDGsを達成していきます。

栗原市でのジオパーク活動を、持続可能なものへと成長させていくためにも、「栗駒山麓ジオパーク」の活動へのご理解とご協力を、どうかよろしくお願いいたします。

929名 (2012年)	ジオパーク宣言・活動開始
17,511名 (2015年)	日本ジオパーク正式認定
16,613名 (2019年)	日本ジオパーク再認定・ビジターセンターオープン
4,092名 (2020年)	新型コロナウイルス感染症拡大により規模縮小の事業推進

「地震直後の栗駒山と荒砥沢ダム」 写真提供：林野庁 東北森林管理局

プロジェクト1 栗原の大地を守る 保全活動



- ◆ 貴重な地質・地形遺産の保全へ向けた研究活動支援
- ◆ 主要なジオサイトの散策路や柵等のハード整備
- ◆ 地域の自然・文化資源を計画的に守るための保全指針策定



★研究成果に基づいて、ジオサイト（＝地域の価値ある地質・地形遺産）や自然、それに関連する歴史・文化を正しく守るための基盤づくりが進みます。
 ★ジオサイトやそれに関連する地域の自然・文化資源を、良好な状態で活用し、未来に受け継ぐための保全活動が進められます。
 ★環境保全（特に地質・地形遺産）の分野において、国内外で参考となる新たな事例をつくることができます。

プロジェクト2 栗原の大地に習う 教育活動



- ◆ あらゆる世代へ向けた 栗駒山麓ジオパーク学習プログラム開発と実施
- ◆ ジオパークの教育機会にアクセスし易くする デジタル教材の作成
- ◆ 主要ジオサイト「荒砥沢地すべり」の世界的価値向上へ向けた活用機会創出



★あらゆる世代の人々が、地球と暮らしの結びつきに気付くことで、地域の貴重な自然や文化を守る気持ちを育むことができます。また、大地や自然の成り立ちへの理解を深めることで、防災・減災への意識向上につながります。
 ★栗原のみならず、国内外で発生した自然災害の事実を継承することで、将来的な災害リスクの軽減につながります。
 ★地域の貴重な自然・文化資源を適正に利用できる人材が育つことで、その恩恵を継続的に得ることができます。

プロジェクト3 栗原の大地を活用した 経済活動



- ◆ 環境負荷の少ないアクティビティやジオツアーの開発と実践
 - ・栗駒山麓ジオトレイルの整備
 - ・ジオツアープログラムの開発と実践
- ◆ 栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」認証制度の活用
 - ・認定商品（菓子・飲料・おみやげ部門）の販路開拓・拡大へ向けた基盤づくり
 - ・認定商品（飲食店部門）の利用者増へ向けた事業の実施



★アクティビティやジオツアーが地域に定着することで、誰もが気軽に栗駒山麓ジオパークを楽しむための環境整備・運用が進みます。
 ★事業主体と来訪者が、地域の自然・文化資源の適正な利用をすることで、その恩恵を継続的に得ることができます。
 ★市場調査等を通じた定量的・定性的な情報を基に、顧客のニーズと当該認証制度の目的を加味した商品として販売し、販路拡大につなげることができます。
 ★各事業を通じて、地域内に新たな人の繋がりを生み出すことで、新規事業や活動への展開、経済効果が期待できます。

プロジェクト4 ジオパークに親しむ 拠点施設整備



- ◆ ユニバーサルデザインを意識した誰もが楽しむことのできる拠点施設整備
 - ・ビジターセンターのシアター映像コンテンツの追加、展示什器の整備
 - ・ビジターセンターの利用者増加と維持へ向けた取り組み
 - ・ジオパークエリア内の情報発信拠点の展示整備



栗駒山麓ジオパークビジターセンター
 来館者数 32,022名
 (2019年4月1日～2021年3月20日)

★誰もが気軽に栗駒山麓ジオパークに親しむことのできる環境整備・運用が進みます。
 ★各展示を通して、栗原の自然・文化資源が有する魅力を、来訪者に明確に伝えることができます。
 ★栗駒山麓ジオパークの取り組みを応援してくれるファンやリピーターの醸成につながります。